

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開 (2015年10月号)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 9月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・市場実勢ともに小反発した。8月には1米国ドル=6.45元近辺で元買いドル売り介入が行なわれたことから、9月はそのレベルを下値のメドとして、戻り高値を試す展開となった。
- 当面の人民元（市場実勢）は1米国ドル=6.35元を挟んだ一進一退を予想している（取引レンジは1米国ドル=6.30~6.40元）。引き続き人民元は売られ易い地合いながらも、元買いドル売り介入が国外市場にも及ぶなど中国政府は下落を食い止めるスタンスを取ると思われる。しかし、アジア通貨がさらに下落すれば、人民元は再び下落する可能性もある。

[9月の動き]

9月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・市場実勢ともに小反発した。基準値の当月高値は7日に付けた1米国ドル=6.3584元、当月安値は24日に付けた同6.3791元で、9月末は前月末比0.4%元高・ドル安の同6.3613元で終えた。一方、市場実勢(スポット・オフア、中国外貨取引センター)は、2日に付けた1米国ドル=6.3560元が当月高値、23日に付けた同6.3838元が当月安値で、9月末は前月末比0.3%元高・ドル安の同6.3568元で取引を終えた(図表-1)。

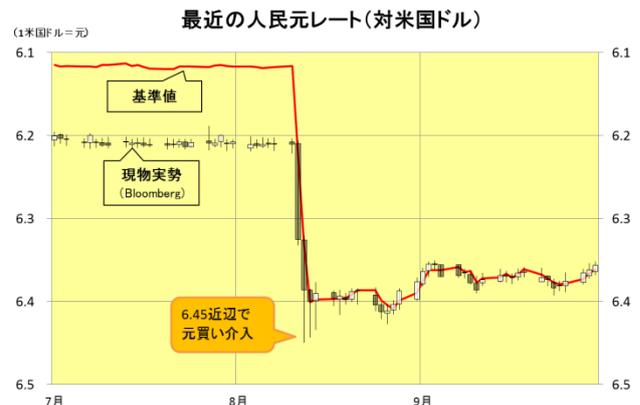
中国人民銀行が8月11日に、人民元の対米国ドル為替レートの基準値の市場化・基準性を高めるため、基準値の形成メカニズムを改善すると発表して以降、市場関係者の悩みの種だった“基準値と市場実勢の大幅乖離”は解消、9月も基準値が市場実勢から大幅に乖離するような事態に戻ることは無かった(図表-2)。また、1米国ドル=6.45元近辺で元買いドル売り介入が行なわれたことから、9月はそのレベルを下値のメドとして、戻り高値を試す展開となった。

(図表-1) 人民元（対米国ドル）の価格推移

	基準値		現物実勢	
	前日比	(注)	オファー	ビッド (注)
8月末	6.3893	-	6.3768	6.3760
9月1日	6.3752	▲0.0141	6.3646	6.3641
9月2日	6.3619	▲0.0133	6.3560	6.3559 (当月高値)
9月7日	6.3584	▲0.0035 (当月高値)	6.3659	6.3659
9月8日	6.3639	0.0055	6.3675	6.3673
9月9日	6.3632	▲0.0007	6.3782	6.3778
9月10日	6.3772	0.0140	6.3774	6.3770
9月11日	6.3719	▲0.0053	6.3750	6.3749
9月14日	6.3709	▲0.0010	6.3679	6.3677
9月15日	6.3665	▲0.0044	6.3705	6.3703
9月16日	6.3712	0.0047	6.3709	6.3707
9月17日	6.3670	▲0.0042	6.3660	6.3655
9月18日	6.3607	▲0.0063	6.3643	6.3640
9月21日	6.3676	0.0069	6.3693	6.3693
9月22日	6.3721	0.0045	6.3760	6.3755
9月23日	6.3773	0.0052	6.3838	6.3836 (当月安値)
9月24日	6.3791	0.0018 (当月安値)	6.3827	6.3823
9月25日	6.3785	▲0.0006	6.3744	6.3737
9月28日	6.3729	▲0.0056	6.3691	6.3687
9月29日	6.3660	▲0.0069	6.3639	6.3636
9月30日	6.3613	▲0.0047	6.3568	6.3561

(資料)CEIC(中国外貨取引センター)

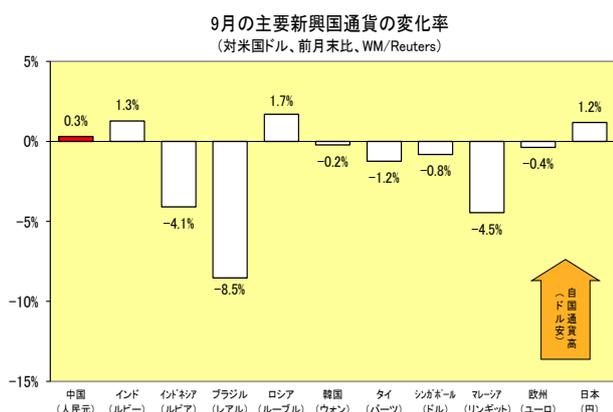
(図表-2)



(資料)Bloombergのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成

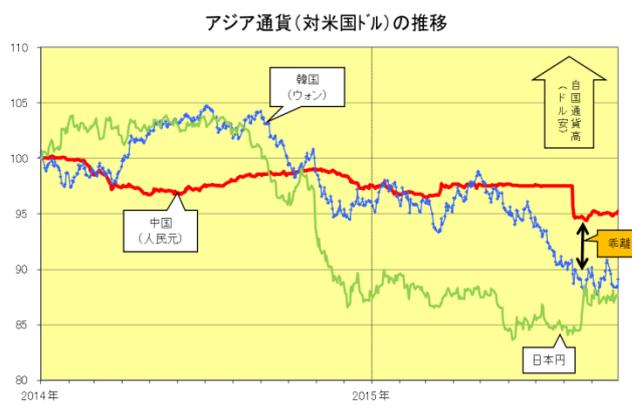
一方、世界の通貨の動きを見ると、9月はまちまちの動きとなった。主要通貨では欧州ユーロが米国ドルに対して前月末比0.4%下落したものの、日本円は逆に同1.2%上昇することとなった。また、新興国通貨ではブラジル（リアル）が同8.5%下落、マレーシア（リンギット）が同4.5%下落、インドネシア（ルピア）が同4.1%下落と米国ドルに対して大きく下落した通貨が多かったものの、ロシア（ルーブル）は同1.7%上昇、インド（ルピー）は同1.3%上昇と小反発した通貨も少なくなかった。こうした動きの中で、中国の通貨（人民元）は米国ドルに対して小幅に上昇したことから、アジア通貨の中では堅調なレベルを維持しているといえるだろう（図表-4）。

(図表-3)



(資料) Datastreamのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成

(図表-4)



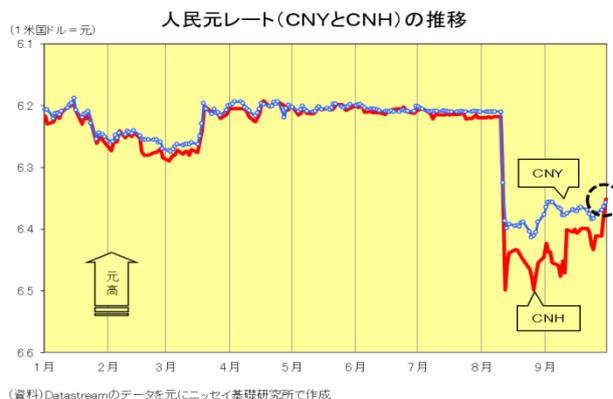
(資料) Datastreamのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成
(注) 2013年12月末=100として指数化

[今後の展開]

さて、当面の人民元（市場実勢）は1米国ドル=6.35元を挟んだ一進一退を予想している（取引レンジは1米国ドル=6.30~6.40元）。米国では12月にも利上げとの見方が強まっている一方、中国では10月19日に発表される7-9月期GDPが7%を割り込むとの見方が強まっており、引き続き人民元は売られ易い。しかし、元買いドル売り介入は国内市場（CNY）に留まらず、国外市場（CNH）にも及んできた模様で、両者の乖離は9月に急激に縮小した（図表-5）。9月に訪米した習近平主席が「人民元は今後、バランスの取れたレベルで安定を維持する」と述べており、中国政府は人民元の下落を食い止めるスタンスを取ると思われる。

但し、米国が早期に利上げに踏み切り、アジア通貨が下落すれば、中国政府が介入を停止して、人民元は再び下落する可能性がある。市場への介入は為替自由化の方向性に反する上、アジア通貨がさらに下落すれば習近平主席の言う“バランス”も変わってくるからである。

(図表-5)



(資料) Datastreamのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。